

大相撲の現状分析と人気復活のために

A study of affairs in Grand Sumo : how to revive in popularity

1K08B240-1 米山彰人

指導教員 主査 武藤 泰明 先生 副査 寒川 恒夫 先生

【研究の動機・研究方法】

大相撲の人気低下がはなはだしい。力士暴行死事件から、大麻事件、暴力団との癒着疑惑、野球賭博問題、そして、関取たちの八百長事件とこの数年の間に大相撲の反社会的な事件が相次いで発覚し、大相撲は存続の危機にたたされた。日本の国技である大相撲に国民の関心が薄れていくものは非常に寂しい。大相撲の人気復活のため有効な手立てを示すことが本研究の目的である。なお、研究方法は文献研究とする。

【各章の要約】

〈第一章〉はじめに

八百長の処分から、異例の技量審査場所、名古屋での本場所再開まで、の簡単な流れをまとめた。相撲協会が10月に提出するとしていた改革工程表はいまだに文科省に提出されていない。

〈第二章〉大相撲の仕組み

対戦方式は部屋別総当たり制が採用されており、同じ部屋同士の力士とは対戦しないことになっている。力士になるには体格基準を満たしていれば誰でもなれる。基準を満たさなくても体力検査で一定の得点をあげれば合格する。非常に門戸が広いプロスポーツなのである。力士の給料は番付に応じた月給制と、増えることはあっても減ることはない力士褒賞金という本場所ごとに支払われる給与がある。褒賞金制度は年功型賃金制に近く、実力主義であるはずのプロスポーツにおいては特殊な給与体系となっている。力士は相撲部屋に所属し、相撲部屋には協会から維持費、養成費が支給され、十両以上の力士を養成した部屋には養成奨励金が支給される。

〈第三章〉相撲人気の低迷

「相撲に興味がある」と答えた人はわずか15.7%しかいないという調査結果がある。

観客数が少なくなるにつれ、チケットの販売方法が変化した。一般客には手に入るものなかった全ての桟席がインターネットで購入できるようになり、さらには桟席のバラ売りを始めた。長らく大相撲の収入を支えてきた固定客が離れてしまった。

〈第四章〉力士

幕内では学生出身力士、外国人力士の数が増加している。学生相撲で実力が既にあると実証されている力士は出世が早く、親方は養成奨励金が手に入りやすい。近年、外国人力士の台頭はすさまじく番付上位三役をほぼ占めるようになってきた。外国人力士は日本人力士が情報端末の発展により、失ってしまった「遠い故郷」を糧に強くなる。我慢強い者が増えたといわれる現代社会と呼応するように、日本人の新弟子は辛い稽古に耐えられない。

〈第五章〉八百長

数億円単位で取引されるといわれる年寄名跡を襲名した力士引退後の年寄・親方による利益独占の部屋経営と、幕下以下の力士である養成員という無休の住み込み弟子である幕下以下の力士の支配服従関係が大きな問題とされている。

〈第六章〉品格

ガッツポーズをすることが問題となる相撲界独特の倫理観、対戦相手に感謝する気持ちが大切なのである。抑制の美学が相撲の魅力のひとつである。勝敗にかかわらず、感情を抑えることにほかのプロスポーツにはない相撲独特の美しさがある。

〈第七章〉相撲人気の復活のために

中卒力士が減少することにより、ドラフト制度が可能となる。部屋別総当たり制を採用しているので、それぞれの部屋に戦力が散らばり、好取組が増やすことができる。

相撲の質向上のため、八百長を防ぐため、幕下以下の養成員には引退までの期限を設ける。第二の人生を歩むことができるように職業訓練もサポートを行う。中卒力士を減らし、大卒力士が増えることにより、相撲以外の道の幅を広げることができる。

〈第八章〉まとめ

競技者人口を増やすため、学校体育に相撲を取り入れ、高校、大学に相撲部を増やす。観光立国として、大相撲は立派な日本が誇るべき資産である。